

アクティブ・ラーニングを超えて ～自分で自分を成長させる次世代教育～

3w

次世代教育
思考リテラシー

Archiect 未来教育クリエイター / 鈴木敏恵

■ 未来教育4つの修得知カテゴリー

■ 新リテラシーで“創造的な思考”

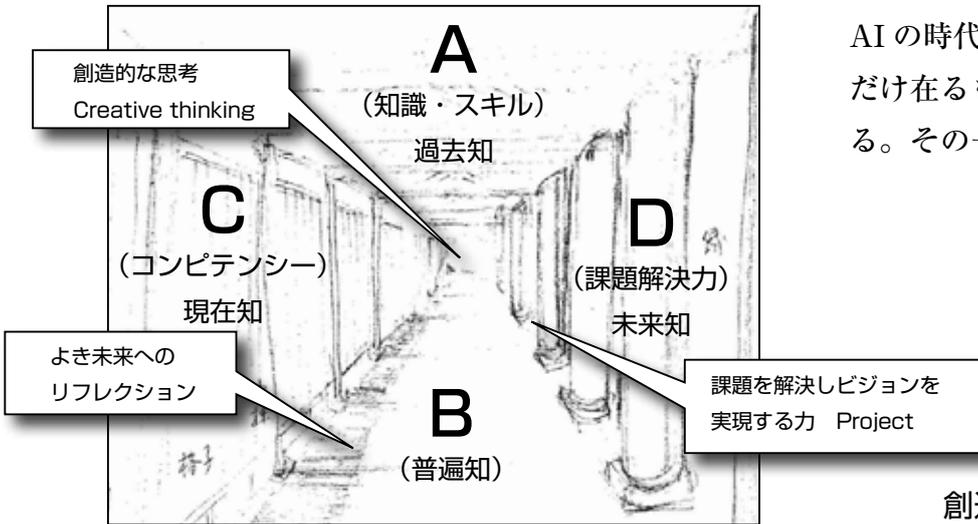
1. 「考える」とはということか
2. クリティカルシンキング
3. 未来へのリフレクション × 発想のリフレーミング
4. 思考力、判断力、表現力
5. 課題解決の思考プロセス



出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。
教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』論文 鈴木敏恵] を明記してください。

未来教育4つの修得知カテゴリー

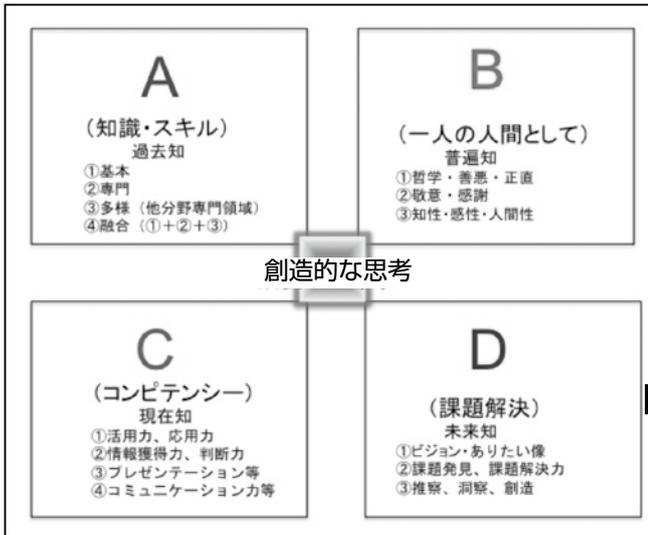
設計思想の素描



AIの時代、未来の教育は、人間にだけ在るものを見だし大切にす。その一つは「創造的な思考」。

日々、仕事をしながら生きて
いる私たちにとって、包括的
な概念としてBの普遍知には
C・Dも含む。

図1：成長の希求



いつの時期かによって、ABCD
の量やクオリティはちがう。

図2：成長カテゴリー

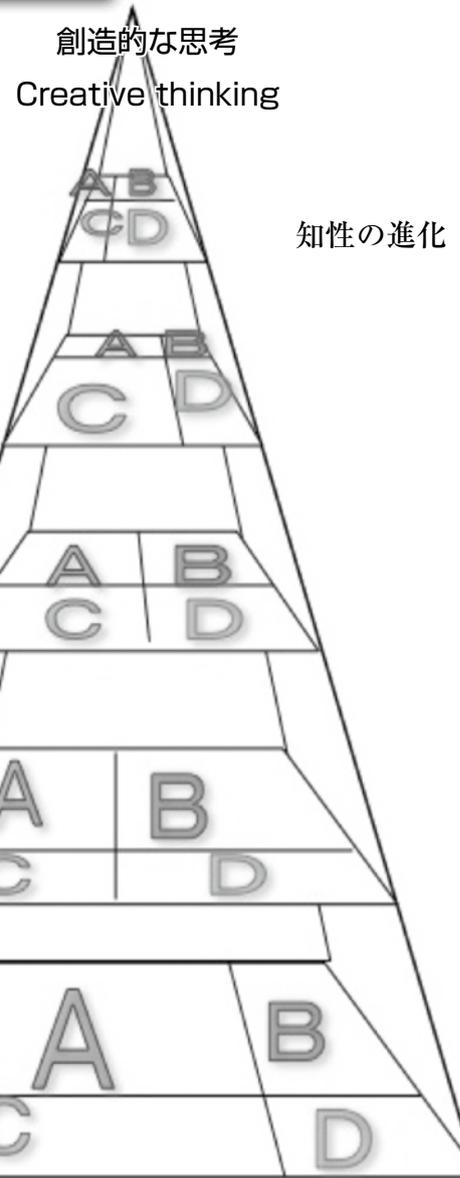
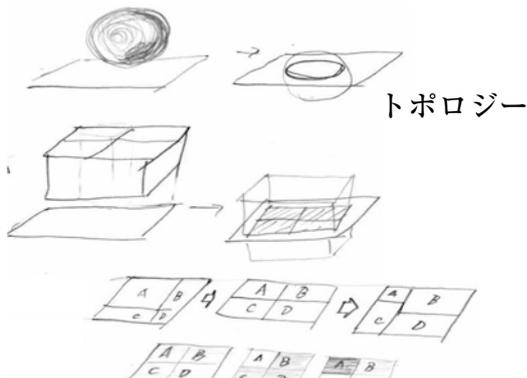


図3：成長ツリー

出版予定の新刊原稿のため一切の無断転載・翻訳等を禁ず。
教育機関で使用される場合は、必ず出典 [『創造的な思考をかなえる次世代教育の設計思想 2015』論文 鈴木敏恵] を明記してください。

未来教育4つの修得カテゴリー／成長ツリー

知的プロフェッショナルとして…
自立した社会人として…
一人の人間として…

成長への希求

〈創造的な思考〉

- A**…基本知識・スキル
- B**…人間としての姿勢
- C**…知識の活用力・応用力
- D**…先見力・問題解決力・知識創造

第Ⅴ - 伝承期

自らの知を他者へ伝える貢献ステージ

第Ⅳ - 表現期

プロとして社会参加するステージ

第Ⅲ - 吸収期 (新人)

知識をどん欲に修得するステージ

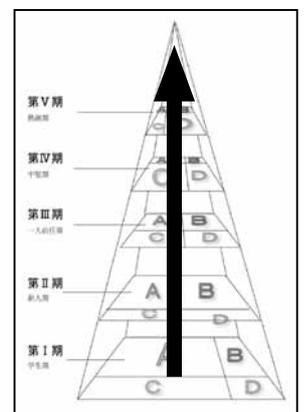
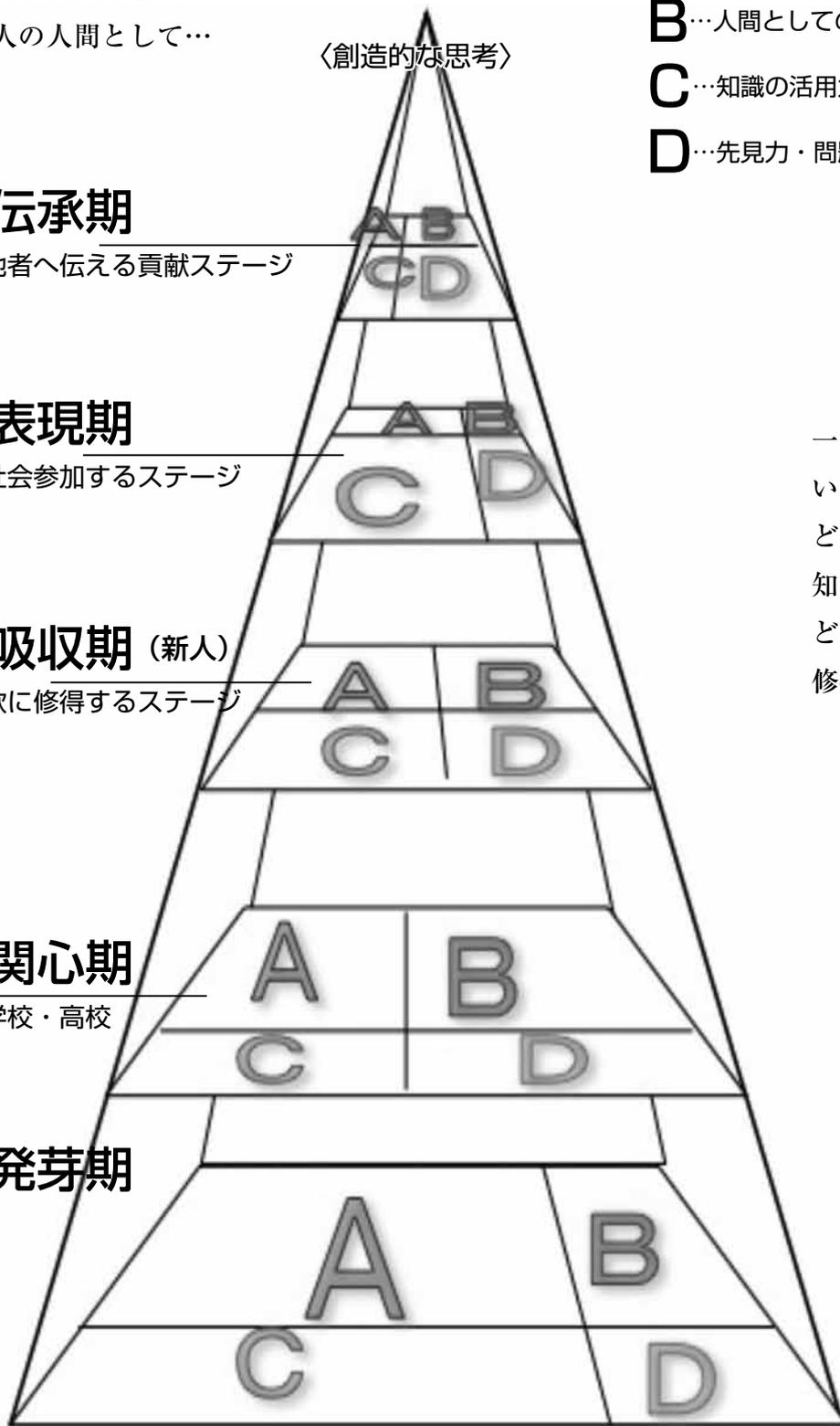
第Ⅱ - 関心期

大学・専門学校・高校

第Ⅰ - 発芽期

幼小中学校

一人の人間として
いつ
どんな
知を
どんなステージで
修得したらいいか



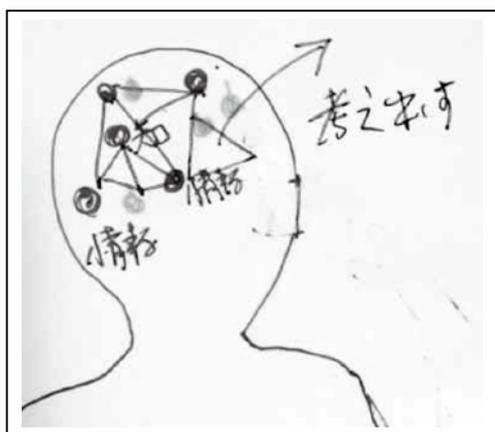
■学びのキャリアデザイン
資質や才能を糸芯とする
キャリアストーリー

新しいリテラシーで創造的な思考

■ “創造的な思考” へのリテラシー

1. 「考える」とはということか
2. クリティカルシンキング（情報を見極める力）
3. 未来へのリフレクション × 発想のリフレーミング
4. 思考力、判断力、表現力
5. 課題解決の思考プロセス

1 「考える」とはということか



- ◎ アタマの中の情報と情報を関連づけること
- ◎ 考えるとは、何かと何かを照らしあわせること
- ◎ 何を見て、(どんな情報を手に入れて) どう考えるのか
- ◎ 「考える」ためには「情報」がいる

2 クリティカルシンキング（情報を見極める力）

クリティカルシンキング（「情報」を手に入れるときの）セルフコーチング

- 何のために情報があるの？
- いま分かっていることはなに？
- 何が知りたくて情報があるの？
- その情報はどうしたら手に入るの？
- ほかに方法はない？
- これは確かな情報か？ どうしてそれがわかるの？
- あなたの考えと異なる情報を探そう
- ほかの場所にいる人とディスカッションもしましょう

3 未来への「リフレクション」× 発想を広げる「フレーミング」

リフレクション：内観・内省

リフレクション、そこには自己を高めたい、成長したいという前向きな未来への思いがある。



ポートフォリオで自分の経験を
つぶさに追うことができる

- ・見たこと
- ・考えたこと
- ・やったこと
- ・そのときの気持ち
- ・そのときの状況（写実的な）

リフレクション（内省 内観）のコーチング

「そのときどんな心の状態だった？」

「その時の状況を教えてくれる？」

「その前は何を考えていたんだっけ？」

「その後はどんな感情だった？」

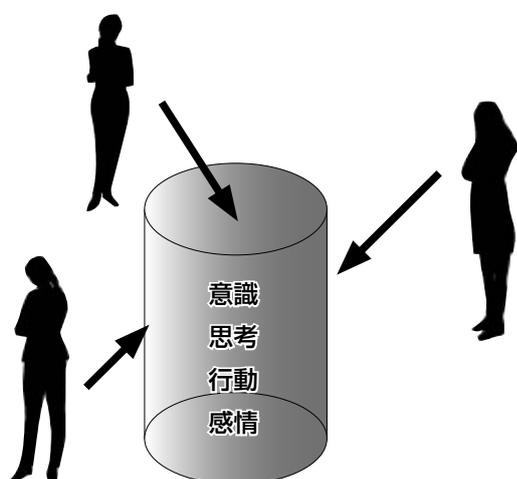
「そのときどんな対応がほかに考えられる？」

「同じような状況になったら、今ならどうできるとおもう？」

「それができるために何が必要？」

リフレーミング：ちがったものの見方

見方が変わると発想が変わり広がる。



ちがった見方が
できる。
大人になった私

4 思考力、判断力、行動力

再現性のある能力獲得 —— 知の構築と思考手順

設計思想／デザイン 鈴木敏恵

教師は学習者の思考を追う必要がある。学習者の思考プロセスを追うためには、思考力、判断力、行動力を一連の活動として総合的にとらえる必要がある。

思考力…その状況をみて考える

情報獲得する

- 無意識から意識化する
- 多面的、多角的にみる
- リフレーミング
- O 情報、S 情報の獲得

保有知識と結びつけ比較する

- 基本的な知識や情報をもっている
- 圧倒的な情報の量と質を獲得している

多面的

多角的

リフレーミング

判断力…その状況下でどうするか判断する

- その状況を把握できる
- そこででき得る行動の候補を列挙できる
- 俯瞰する ← → 自己対話
- プライオリティー／冷静に選択できる
- 一つひとつ比較する…手にとり、どっちが、というように。
- あるべき状態と照らし合わせる
- 原理原則へ立ち戻る・BM (ベンチマーク)、価値観をもっている

判断はエビデンスのもとに行われる必要がある。

分岐で選択する決め手となるエビデンスと原理原則

行動力…その状況のなかこうしたらいいと考え出せる

- とにかくやる！逃げない決意
- その時、その場でする動き、視線、ふるまい、言葉、動線をイメージ
- 頭の中で行動している自分・それを客観的に見て表現できる
- 動くことで周囲に与える影響も考えられる

比較 分類 差異点
相違点 共通点 類似点
関連付け 関係付け
規則性

5 課題解決の思考プロセス

